

## デンゲ②

## 停電と蚊の発生は密接

## 白道のカミミーノ便り



陶芸を教えた工芸の先生  
たちと＝ドミニカ共和国

平均気温が4度上昇すれば、デンゲ（ Dengue熱）の原因である蚊が日本にも上陸するだろうと聞いた。デンゲには「1回刺されて死ぬ」「一度は命をとりとめても2度目には確実に死ぬ」など色々なタイプがあるらしい。温暖化が進んだら、2度目の蚊に日本で刺されて死ぬことになるのだろうか？

日常的停電と蚊の発生とは密接な関係がある。ラ・ロマーナでは4〜5時間電気があったりなかったり。それが毎日不規則に繰り返される。停電すればトイレの水も

流れない。不潔な水の中に蚊が発生する。という訳で学校のトイレにはいつも南京錠がかかり、鍵は先生が所持している。

エスクエラ・ポカシヨナル（軍に属する職業訓練校）では午前中の生徒は昼に帰り、午後は別の生徒が来る。夕方には成人向けの授業がある。授業は合計3時間くらいなので、生徒はたいいていトイレへ行かずに我慢する。我慢できないければ、先生に鍵を借りる。停電中なら水の入ったバケツとトイレトーパーを抱えて行く。

陶芸の授業には水が欠かせない。私の朝一番の仕事は水くみだった。コンクリートの大きな水槽にはボウフラがわいている。他に選択肢はないのでそれをくむ。

一日学校にいることも多く、何度かバケツを抱えてトイレに通った。電気が通れば、あちこちの蛇口から水がほとぼしる。トイレの床はいつも水浸しである。停電した時のために発電機はあるが、燃料代節約のために昼は使用しない。デンゲにかかる条件は完備していたわけである。